

Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas With Distinct Pancreatic Ductal Adenocarcinomas Are Frequently of Gastric Subtype

井手野, 昇

<https://hdl.handle.net/2324/1441092>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

論文審査の結果の要旨

膵管内乳頭粘液性腫瘍 (intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas, IPMN)とそれに合併する通常型膵癌の病理学的特徴は、IPMNの組織亜型と通常型膵癌の表現型を含め明らかにされていない。申請者らはこれら2つの病変の関係を調べるためにそれぞれの臨床病理学的特徴、粘液形質発現とGNASおよびKRAS遺伝子変異の解析を行った。

切除を行ったIPMN179例とIPMN非併存通常型膵癌180例の臨床病理学的データを検討した。IPMNは4つの異型度（軽度異型、中等度異型、高度異型、由来浸潤癌）と4つの亜型（胃型、腸型、胆膵型、好酸性顆粒細胞型）に分類した。IPMNとIPMN併存・非併存通常型膵癌において、粘液形質の発現を免疫組織化学染色法で、GNASおよびKRAS遺伝子変異をSanger法で解析した。

IPMN患者179例中20例 (11.2%) に、同時性・異時性に発生した通常型膵癌26病変が同定された。IPMN併存通常型膵癌は、腸型(1/49, 2%)、胆膵型 (1/17, 5.9%)、好酸性顆粒細胞型 (0/3, 0%)と比較して胃型 IPMN (18/110, 16.4%)で有意に高い頻度でみられた。免疫組織化学染色ではIPMN併存・非併存通常型膵癌の両者でMUC1, MUC5AC, MUC6が陽性である頻度が高く、MUC2, CDX2はほとんどの例で陰性であった。IPMN併存通常型膵癌の粘液形質は胃型IPMNから発生した浸潤性管状腺癌と類似していた。GNAS codon 201変異は胃型IPMNと併存通常型膵癌では認められず、KRAS変異は両病変のほとんどで認められた。

粘液形質と遺伝子変異の解析によってIPMN併存通常型膵癌はGNAS変異がない良性の胃型IPMNを有する膵に高頻度で発生することが示された。

以上の結果はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員会合議の結果、試験は合格と決定した。